

体育で学校を変える！

2000年3月15日朝日新聞に、日本体育大学の正木健雄先生を中心とする研究グループの調査研究が取り上げられ、そこでは中・高生において「低体温の子ども」「意欲の無さ」が急増し、体のリズムが学校生活と合わなくなっているとする報告が掲載された。正木氏は、それまでも小中学生に認められる「背中ぐにゃ」「朝からあくび」といった身体的なおかしさに警鐘を鳴らしておられた（1990年代）。

現在の児童・生徒は、こうした身体のおかしさが改善されてきているのであろうか。

この2016年8月に大阪体育大学で開催された第67回日本体育学会体育科教育学専門分科会のシンポジウムにおいて、正木氏の弟子である野井真吾先生（日本体育大学教授）の調査研究の報告がなされた。そこでは、現在の幼小中学生は「身体のおかしさ」にとどまらず、「心・精神のおかしさ」にまで進行し、幼・小・中・高の子どもたちの身体形成が病的現象になりつつあることが予想された。

「身体のおかしさ」から「身体の危機」へと深刻化してきているのである。

こうした現状の改善に向けて、一教科である「体育科・保健体育科」の教育実践だけで対応することには限界が出てきている。「身体の教育」を教科の中心課題に置く「体育科・保健体育科」から「学校」それ自体を巻き込んで改革・変革していく必要がある。

そこで、大阪府内の公立学校現場で「体育」で学校を変える実践を試みておられる諸氏に参集していただき、実践の内容と成果、さらには今後の展望をご紹介いただく中で、児童・生徒の身体の危機をいかにして乗り越えていくべきものなのかについて論議したい。

◆日 時 平成 29 年 1 月 14 日 (土) 13:00～16:00

◆会 場 大阪産業大学梅田サテライトキャンパス

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル19階
TEL. 06-6442-5522 高層用エレベーターをご利用ください

◆基調講演 小山 吉明先生（長野県須坂市立常磐中学校・教諭）

◆シンポジスト

井上 淳司先生（大阪市立生魂小学校・校長）

中村 雄紀先生（大阪市立安立小学校・教諭）

濱田 晋也先生（堺市立月州中学校・教諭）

宮川 潤一先生（大阪市立松虫中学校・教諭）

司 会 林 修（和歌山大学）

※参加費は無料（会員・非会員を問わない）です。

お問い合わせ先
和歌山大学教育学部
林 修
TEL 073-457-7264
Mail hayashiom@center.wakayama-u.ac.jp